

11.小児科 ジュニア・レジデントプログラム

1 指導責任者： 島川哲郎(母子センター所長)

2 期間： 基本8週間、(必須)(2年目選択)

3 目標

【一般目標 GIO】

成長発達により日々変化する小児の特性を理解する。患児及びその両親、家族と良好な人間関係を築くことにより、スムーズに診療が行える力を身につける。小児疾患の特異性と治療の特徴を理解する。

【個別目標 SBOs】

A 知識領域

- 1) 正常小児の成長及び成長発達について理解し、異常を指摘することができる。
- 2) 年令ごとに異なる疾患の特性を理解すると共に、的確な診断過程を述べることができる。
- 3) 小児科特有の検査、処置、治療を理解し、よく遭遇する疾患に関しては治療計画をたてることができる。
- 4) 小児の体重あるいは体表面積に応じた小児薬用量、用法を理解し、処方できる。また、副作用を理解し対処できる。
- 5) 小児の輸液管理についてその特性を理解し、それぞれの年令、体重に合った水分管理ができる。
- 6) 予防接種の種類、接種時期、接種方法などについて理解し、実践できる。

B.技能領域

- 7) 家族から、年令に応じた発達成長歴、病歴、ワクチン歴などが聴取できる。
- 8) 母子手帳より出生時の状態、発達成長の過程などを読み取ることができる。
- 9) それぞれの年令にあった診察ができる。
- 10) 採血、静脈レートの確保ができる。
- 11) 検査結果より異常値を指摘できる。
- 12) 安全に配慮しながらワクチン接種ができる。
- 13) ツベルクリン反応の皮内テスト及び判定ができる。
- 14) 胃管の挿入と管理ができる。
- 15) 胸部、腹部などの X 線写真において、よく見かける異常所見を指摘することができる。
- 16) 新生児の血糖、ビリルビン値を測定し、的確な指示が出せる。

C.態度領域

- 17) 医師である前に社会人として恥ずかしくない態度を常にとることができるよう心掛ける。
- 18) 小児に対し、その年齢に合った対応ができる。
- 19) 患いの家族に対し思いやりを持った態度で接する。
- 20) 指導医、上級医師に的確なタイミングで相談する。

経験できる症例の種類

ほぼ間違いなく経験できる症例

- ① 咽頭炎・扁桃腺炎
- ② 急性喉頭炎
- ③ 気管支炎
- ④ 肺炎(細菌性、ウイルス性、マイコプラズマなど)
- ⑤ 溶連菌感染症
- ⑥ 気管支喘息
- ⑦ 感染性胃腸炎(ロタウイルス、ノロウイルスなど)
- ⑧ 急性腸炎(細菌性、キャンピロバクターなど)
- ⑨ 痙攣性疾患(熱性痙攣、てんかんなど)
- ⑩ ウイルス感染症(水痘、流行性耳下腺炎、プール熱など)
- ⑪ 無菌性髄膜炎
- ⑫ 伝染性膿痂疹
- ⑬ アトピー性皮膚炎
- ⑭ 虫垂炎
- ⑮ 低出生体重
- ⑯ 高ビリルビン血症
- ⑰ 尿路感染症
- ⑱ 川崎病
- ⑲ 細気管支炎
- ⑳ 食物アレルギー

・比較的経験しやすいあるいは時には経験できる症例

- ① 急性リンパ節炎
- ② 腸重積
- ③ 痙攣重積
- ④ 蕁麻疹

- ⑤ 多形紅斑
- ⑥ 先天性心疾患
- ⑦ 低身長症
- ⑧ 蜂窩織炎
- ⑨ ネフローゼ症候群
- ⑩ 急性腎盂腎炎

・希ではあるが経験できることもある症例

- ① 急性喉頭蓋炎
- ② 化膿性髄膜炎
- ③ 急性散在性脳脊髄炎
- ④ 小脳性運動失調症
- ⑤ 急性脳症
- ⑥ 百日咳
- ⑦ 好中球減少症
- ⑧ 肥厚性幽門狭窄症
- ⑨ アレルギー性紫斑病
- ⑩ その他

4 方略 LS

LS1 診療 OJT

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟回診 外来処置	病棟回診 外来処置	病棟回診 外来処置	病棟回診 外来処置	病棟回診 外来処置	病棟回診外来 処置	病棟回診
午後	病棟回診 症例検討会 抄読会 小児神経外来 アレルギー外 来	病棟回診 乳児検診	病棟回診 予防接種	病棟回診	病棟回診 小児心臓外来	病棟回診 慢性疾患外来	
夕方	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	

- ※ 病棟回診では上級医師の指導のもと、実際に受持ち入院患者の診察、処置、処方などを行い、カルテ記載をする。
- ※ 小児では病状の変化が成人よりも早いいため、午前、午後、夕方の3回は受持ち入院患者の回診を行う。
- ※ 外来で採血、点滴などの処置が発生した場合、上級医師の指導のもと実際に処置を行う。

- ※ 午後の専門外来では専門領域における診察の方法等を学ぶ。
- ※ 小児救急は24時間体制、急患発生時、随時対応。救急患者の受診時には、上級医師の指導のもと、実際に診療を行う。
- ※ 初期研修医師の日当直業務は副直として月5〜6回程度。上級医師の指導のもと、実際に診療にあたる。

LS2 勉強会・カンファレンス

- ① 週1回、小児科カンファレンス(担当症例は解説する)
- ② 週1回、勉強会または抄読会(当番になれば発表する)
- ③ 月1回、医局合同カンファレンス
- ④ 京都小児救急医療研究会、山科区小児科医病診連携勉強会、山科医師会との合同症例検討会、丸太町病院との合同症例検討会など年1〜2回の学会、研究会などには機会が合えば発表する。

5 評価 EV

- 1) 毎週のカンファレンスにて自分の担当した入院患児に関しプレゼンテーションを行い、形成的評価を受ける。
- 2) 実技技能に関してはその都度、現場にて評価を受ける。
- 3) ローテーション最終週のカンファレンスにて指導医より与えられたテーマをまとめて発表し評価を受ける。
- 4) 研修終了後、総括的評価として指導医が EPOC 入力を行う。